

情報社会学部

●情報社会学科

- ・現代社会コース
- ・経営・経済コース
- ・情報コミュニケーションコース

■情報社会学部という学部

情報社会学部は、2012年4月に誕生した学部です。全国に780校ほどある大学の中で、大阪経済大学にしかない日本で唯一の学部です。そのため、みなさんはこれから「情報社会学部ではどんな勉強をしていますか」という質問を受ける機会が少なからずあると思います。その時、みなさんはどう答えますか？

この質問に答えることは、情報社会学部で勉強すればするほど難しくなるかもしれません。それは、学部名に入っている「社会」という言葉のイメージが、一般的に明確ではないからだと考えられます。

実は、答えのヒントは情報社会学部の英語名「Faculty of Information Technology and Social Sciences」にあります。情報社会学部の名称には、最新のIT（情報通信技術）の理解と修得、社会科学の理論と実践、という2つの意味が込められているのです。

■ITからICTへ

21世紀になった頃からIT（情報技術）は飛躍的に発展しました。現在では、そこに「C」すなわちコミュニケーションが加わって、ICTと呼ばれるようになりました。このような流れも、情報社会学部が誕生したきっかけの一つと言えるかもしれません。

コミュニケーションは、向かい合っでの会話、電話での会話、手紙やメールのやりとりのように、双方向かつ一対一で行われる「パーソナル コミュニケーション」と、新聞・テレビ・雑誌のように、一方方向かつ一対多で行われる「マス コミュニケーション」の2つに分けられるといわれてきました。そこに、革命をもたらしたのがコンピュータ ネットワーク、つまりICTです。ICTを活用することによって生まれた、双方向かつ多対多の新しいコミュニケーションのカタチは、「ソーシャル ネットワーク」と呼ばれています。

みなさんはツールとしてのICTを学びながら、自由自在に操ることができる「レベル1」、ビジネス・チャンスにつなげていく「レベル2」、新たに創り出していく「レベル3」というふうに、段階的に知識と技術を磨いていってください。

■社会とは、社会科学とは？

次に「社会」という言葉について考えてみましょう。コミュニケーションにおいて自分と相手がいるのと同じように、人がひとりでは社会とは言えず、複数の人々が集まり、そこに何らかの関係性が存在するときに社会が構成されます。たとえば、通学中の電車内には多くの人々がいますが、それを社会とは言いません。人と人との間に何らかの関わり合い、つながりや結びつきがあって、はじめて社会と言えるのです。

その関わり合いを築いたり保ったり、あるいは変えていくために、人はコミュニケーションを行うと言ってもよいでしょう。夫婦は2人しかいませんが社会ですし、授業中の教室の中も教員と学生の関わり合いがあるので、もちろん社会です。

学問的に言えば、社会とは、接近・適応・同化・統合といった人と人との「結合」の関わり合い、競争・対立・闘争・派閥といった「分離」の関わり合い、そして支配・代表・分業といった「上下」の関わり合いなど、様々な関わり合い＝社会関係をもつ人間の集団を指します。社会には、結合関係だけではなくて、分離関係や上下関係が必然的に生まれる、ということ意識しておいてください。

このように、人はいつでも、どこでも、他の人とお互いに関わり合いを持ちながら、生活を営んできました。その単位として、小さいものは家族・親戚（血縁社会）や近隣（地縁社会）、あるいはもう少し広げると企業・官庁（組織社会）や都市・農村（地域社会）、さらに大きくなると日本社会、国際社会などを挙げることができます。社会科学とは、これらのすべてを研究対象とする学問だと言えます。「社会」という言葉のイメージの多様性は、ここから生じています。

ところで、小学校・中学校には「社会科」という科目がありましたが、社会科と社会科学は同じでしょうか。－ 答えは、“No”です。－ 小学校・中学校までの社会科とは切り離して考えてください。むしろ、高校の「現代社会」をイメージしたほうが、わかりやすいかもしれません。

社会科学とは、辞書（広辞苑）によると「社会現象を研究の対象とする科学の総称。政治学・法学・経済学・社会学・社会心理学・教育学・歴史学・民族学およびその関係諸科学。」という解説があり、それに相対するものとして自然科学があります。つまり、社会そのものの構造や歴史的变化を、自然現象との対比の中で理論的に扱う学問と言ってもよいでしょう。

情報社会学部では、これら多くの学問分野の中から、社会学をはじめとして、経済学、経営学、情報学に重点をおいて、カリキュラムを編成しています。

■皆さんがパイオニア(開拓者)！

以上のようなコンセプトに基づいて、情報社会学部では「現代社会」「経営・経済」「情報コミュニケーション」という3つのゆるやかなコースを設定しています。

「現代社会」コースを選択する人には、調査のプロとして「社会調査士」の資格を取得して欲しいですし、「経営・経済」コースを選択する人には、経済社会における市場分析や企業会計、経営分析のプロを、「情報コミュニケーション」コースを選択する人にはICTのプロを目指して欲しいと願っています。もちろん、3コースすべてを身につけたオールラウンダーを目指すこともありです。もしそんな人材がいたら、企業の経営者あるいは人事担当者なら、ぜひとも欲しいと思うでしょう。

2年生になれば、各コースに対応する少人数の「専門ゼミ」を選択することになります。ゼミの先生からきめ細かな指導を受けるとともに、ゼミという社会の中で、自分の意見をしっかり持って、仲間と協力しあったり、真剣に議論したりしてください。これもコミュニケーション力アップのトレーニングになります。

日本で唯一の情報社会学部を成長させ、躍進させていくのは、皆さん自身です。「学生時代にしかできないことは何か」、まずはそれを見定めて、4年先の自分自身をイメージしながら、充実した学生生活を送ってください。この4年間で、「社会」を多面的に理解できる「真の社会人」となることを期待しています。われわれ教職員は、そのお手伝いをします。

情報社会学部の3ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

情報社会学部は、現代社会／経営・経済／情報コミュニケーションという3つの専門分野（コース）を設けており、これら3分野の教育課程を、自分の関心に応じたバランスで修得することができます。

情報化の進む現代社会で活躍できる多様な能力を身に付けた人材を育成するため、以下のような知識や能力、姿勢を身に付けられるように、教育課程を編成し、所定の単位を修得して卒業認定ができた学生に対して、学士の学位を授与します。

（情報社会学部DP1）

新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力

- ・ 3つの専門分野を横断的に学んで実践的な思考法を身に付け、現代社会の諸問題を発見し、課題解決の道筋を立てることができる。

（情報社会学部DP2）

各学問分野における実学的な専門知識と技能

- ・ 全学共通の幅広い教養と、3つの専門分野（すべて、あるいはいずれか）に関する科学的な知識・技能を身に付けて、社会生活に役立てることができる。

（情報社会学部DP3）

社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力

- ・ 多様性を尊重して主体的に他者と関わり、現代社会の諸課題に関心を持って、その解決に意欲的に取り組む姿勢を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

情報社会学部は、現代社会／経営・経済／情報コミュニケーションという3つの専門分野（コース）を設けており、これら3分野の教育課程を、自分の関心に応じたバランスで修得することができます。

コース選択は1年次終了前に自らの関心に依拠して行いますが、途中で関心が変わればコースを変更することも、関心が複数のコースに広がれば所属するコース以外のコース科目を履修することもできます。

このように、学びながら自らの関心を深め、各分野における専門的な知識や能力、学びの姿勢を修得できるように、教育課程を以下の通り編成し、講義・演習・実習等を適切に組み合わせた授業を展開します。

（情報社会学部CP1）

全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために語学科目・広域科目を編成する。

- ・ 語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・ 広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための思考力を身に付ける。

（情報社会学部CP2）

専門的な知識と技能を体系的に身に付けて、現代社会における諸課題の解決に意欲的に取り組むことができるよう、3つの専門分野それぞれにおいて、自由度の高いコース科目群と発展科目群を置く。

□現代社会コース

実社会における現象を、社会調査や統計学の理論と手法を駆使して分析する能力を修得する。

□経営・経済コース

経営管理や会計学の理論と手法を駆使した企業経営の分析や、よりよい社会の仕組みや制度の検討・提案を行う能力を修得する。

□情報コミュニケーションコース

コンピュータ理論と情報処理技術を駆使して、コミュニケーションやビジネスのあり方を考え、実現する能力を修得する。

(情報社会学部CP3)

演習およびいくつかの科目では、実践的な講義やグループワーク等による協働を効果的に進められるよう、少人数教育科目を編成して行う。

- ・1年次に専任教員が担当する基礎演習を置き、グループワーク等を通じて大学での主体的な学びの方法を身に付ける。
- ・2年次秋学期以降には、所属する分野の学びを実践的に体現する主体性を獲得できるよう、専門ゼミ教育を実施し、学びの集大成として「卒業論文」を書き上げるための卒業研究（必須）を置く。
- ・その他の専門科目においても、少人数教育の効果を重視する実習系科目を中心に、クラス分けや履修人数の制限などを行う。

これらの教育課程について、「大阪経済大学アセスメントポリシー」に基づき、様々な角度からの評価（試験・レポート、小テスト、外部アセスメントテスト等）をすることにより学修成果を把握します。

また、教育課程における各授業科目については、シラバスに到達目標を定めどのように評価するかを記載することで質を保証するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

情報社会学部の教育目標に定める人材を育成するため、学位授与の方針に照らして、次のような意欲と能力を備えた学生を受け入れます。

(情報社会学部AP1)

現代社会におけるさまざまな分野に関心を持ち、情報社会学部の教育課程を学ぶ上で必要となる国語、数学、英語、社会等の基礎学力を有する者。

(情報社会学部AP2)

現代社会の多面的な理解に向けて、学内外の諸活動に積極的に取り組み、能動的に学問に触れ、知識を深めることに意欲をもつ者。

(情報社会学部AP3)

現代社会における諸課題の解決に向けて、他者と積極的にコミュニケーションを図り、互いを認め合い、切磋琢磨することに意欲をもつ者。

上記のような者を受け入れるために、以下の入学試験において公平かつ適正に選抜します。

【総合型選抜】 【学校推薦型選抜】 【一般選抜】 【社会人入試・国際留学生入試】

(各選抜方式の詳細は「全学アドミッション・ポリシー（6ページ）」を参照してください)

情報社会学部で学ぶ意義

スマホは便利です。手ばなせません。スマホやケータイがなかった時代に、どうやって人と待ちあわせをしていたのか、今となっては不思議です。

情報技術の進歩によって社会は大きく変わっています。あらゆるところで変化が生じていると言っていいでしょう。しかし、変化の方向はさまざまです。情報化によって繁栄するものもあれば、衰退するものもあります。情報化が進む現代社会について、社会学、経営学、経済学、情報技術を駆使して多面的に学ぶ学部が情報社会学部です。

1 社会変化の多面性

社 会

情報技術の進歩がさまざまなソーシャルメディアを生み出しました。日本では2ちゃんねるやmixiにはじまり、いまtwitterやLINEなどの利用が広がっています。知り合い同士の友好を深める手段としてだけでなく、見ず知らずの人と交流するための道具として利用されています。2010年末からのアラブ諸国の政治変革にfacebookが大きく関わったと言われているように、ソーシャルメディアは政治を動かしはじめています。ソーシャルメディアをいつも使っている人にとっては空気のようにあたりまえの存在かもしれませんが、スマホもtwitterもなかった時代に育った人間にとっては、おどろくべき変化です。新しい人間関係の構築方法が登場して、社会のあり方を変えていると言えます。

経 営

情報技術の進歩は、「楽天」や「アマゾン」といったインターネットを利用した通信販売の登場によって、新しい買物の仕方を生み出しました。家にいて買物ができる便利さだけでなく、街の店では容易に見つけられないこだわりの商品を探し出すこともできます。これを会社の側からみると、インターネットを用いて売り上げを伸ばす営業方法が作り出されたことになります。また、会社の経理がコンピュータで行われるようになって、事務を担当する人はコンピュータの前で仕事をするようになりました。仕事の仕方も変わってきています。工場では機械がコンピュータで動くようになり、モノづくりの方法にも変化が生じています。

さらに情報技術の進歩は、世界中との情報交換が容易になることによって、企業経営の国際化を加速させました。国内にいても世界中の企業と容易に取引ができるようになり、日本の企業が世界中に工場や支店を開設する動きをうながしています。

経 済

情報技術の進歩はお金の扱い方にも変化をもたらしました。会社の利益から配当金をもらうための株券は、以前は紙として金庫に保管されていましたが、いまは電子化されてコンピュータによって電子的に管理されています。お金もインターネット上を駆けめぐるため、株や外国為替などの金融商品の売買が瞬時に行われ、経済の金融化を進めました。

しかし、社会変化はすべての場面で一方向に向かって生じているわけではありません。

情報技術の発展は人間関係、経営、経済というように、社会を多面的に作りかえています。情報化の社会全般への広がり、社会学、経営学、経済学といった従来の社会科学にみられた縦割りの分野構成をつらぬいて生じています。「広く学ぶ」ことが求められているのです。

2 社会変化の多方向性

社 会

ソーシャルメディアは人間関係を広げました。しかしその反面、隣人同士のコミュニケーションの時間をうばっていることも確かでしょう。友人と一緒にいるのに別々にスマホを操作している姿をよく見かけます。全体として人間関係が広がっていても、関係が濃くなっている部分と薄くなっている部分が生じています。

ブログやtwitterの「炎上」にみられるように、ソーシャルメディアが構築しているのは友好関係だけではありません。悪意も飛びかっています。コミュニケーションが容易になればなるほど、コミュニケーションの姿勢には苦勞しなければならない面倒なことになっていると言えます。

経 営

クリックするだけで買物ができる「楽天」や「アマゾン」の存在は、街の商店にとっては脅威です。客を奪われるからです。しかし、地方の伝統的な食材や中小企業の製品を全国に販売するための有効な手段にもなっています。古いものが消えていくといった単純な変化ではありません。

情報技術の進歩は、googleの翻訳機能や発声機能付き電子辞書を登場させて、言葉の壁が取り払われる方向に進んでいます。しかし経営の国際化は、語学力を要請しています。「ユニクロ」や「楽天」は英語を社内の公用語とすることを決めました。

経 済

経済の金融化も一方向に進んでいるわけではありません。情報技術の先進国であり、経済の金融化が進むアメリカでも、金融化にブレーキをかける政策を打ち出しています。

農業から工業、サービス業、そして情報産業・金融業へと経済の中心が一方向に移行しているように見えても、いま日本で、食が見直され、モノづくりの復権が求められているように、逆方向の動きも活発です。

多方向に変化する社会のなかで生きていくためには、「広い視野をもつ」ことが大切です。一方向から見ていただけでは見まちがえてしまいます。

3 変化する社会のなかでの学び方

情報社会学部が提供するカリキュラムは、情報化が既存の学問分野を横断して進む現代社会についての新しい教育体系を提供します。広い学問領域の科目が開講されているために、どんな科目を履修したらいいのか、最初はわからないかもしれません。しかし履修のための指針は、コース制の設定や卒業必要単位数の配分を通して示しています。少しずつでよいので自分の関心と目標を定めて、自分自身の「情報社会学」を作り出していきましょう。

そのとき、自分を固定的にとらえないようにしましょう。変化する社会のなかで、思い込んだ自分にこり固まっていたら、結局は、変化する時代の流れのなかで自分の居場所を見失ってしまうかもしれません。変化の波に乗れるのは変化する若者です。「広い視野をもって、広く学ぶ」ことによって、波に乗ってください。

カリキュラムの概要

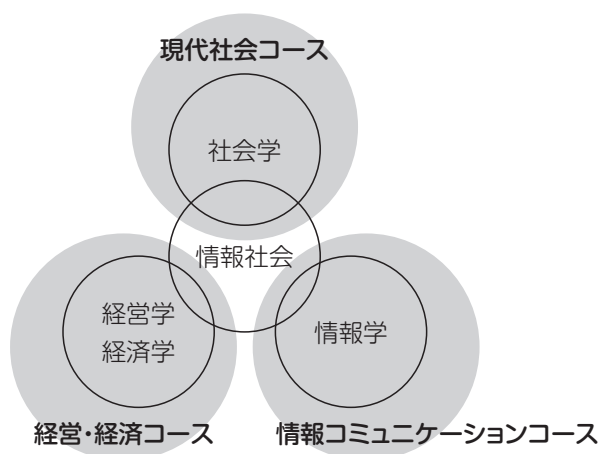
特 徴

情報社会学部のカリキュラムのひとつの特徴は、1年次に社会学、経済学、経営学および情報技術の基礎を学習する「基幹科目」を必修科目として配置し、4年次の「卒業研究」を必修科目としていることです。「基幹科目」と「卒業研究」を必修科目としているのは、スタートとゴールが重要だと考えたからです。スタートで広くしっかりと基礎を作っておくと、その後の学習の方向を定めやすくなるはずです。ゴールを定めておくと、自分の学習の到達点を確認することができます。

もうひとつの特徴は、2年次からすべての学生がどれかのコースに所属するコース制をとっていることです。

■コース制

コース制を取り入れているのは、スタートとゴールのあいだの学習過程で学習目標を自分で設定していったほしいからです。入学時に学習目標や専攻分野を細かく決めてしまうと、授業を受けているうちに関心が変わったり、専攻分野が思っていた内容と違っていたというミスマッチも起こりかねません。コース制は、数多くある科目の中から履修する科目を選択する際の学習指針を提供することにもなります。



コースとして「現代社会」、「経営・経済」、「情報コミュニケーション」の3コースを設けています。「現代社会コース」は、「マスコミュニケーション論」などの社会学系の科目をより多く学ぶためのコースです。あとで説明する「社会調査士」の資格を得るための科目もこのコースの科目です。「経営・経済コース」は、経営学や経済学についてより多く学ぶためのコースです。金融化する現代社会に重点を置いて学ぶことになります。「情報コミュニケーションコース」は、情報技術科目をより多く学ぶためのコースです。「プログラミング基礎・応用」などのプログラミングやパソコンに関わる科目を入れているのは、社会においてデータサイエンスや情報処理能力が求められるからです。

コースは1年次終了時に選択します。各コースに定員を設けていないので、好きなコースを選ぶことができます。また2年次以降もコース変更を認めているので、関心の変化にも対応できるようにしています。

各コースには「コース科目」を設けてありますが、自分が所属するコース以外の「コース科目」

も履修できます。しかも、所属コースによる制約（卒業必要単位数）をできるだけ少なくしています。したがって、社会学、経済学、経営学、情報学のうちのどれかにこだわって学習することができ、あるいは、より広く学ぶこともできます。

履修の流れ

1年次には、「全学共通科目」を学びながら、情報社会学部の「基幹科目」をおもに学習し、幅広い学習範囲の基礎を修得します。「基幹科目」は必修科目ですから、必ず履修し単位を修得しなければいけません。1年次に単位を修得できなかった場合には2年次以降に再履修して修得することになります。

「コース導入科目」も、その多くが1年次に開講されます。1年次終了時に所属するコースを選択する際の判断材料となるでしょう。2年次配当の「コース導入科目」は、所属コースで学習していくうえで初めに学んでおいてもらいたい科目です。

2年次からは「コース科目」も開講されます（一部は1年次開講）。秋学期からは「演習」（ゼミナール）もはじまります。ゼミナールは、少人数クラスで専門的に学ぶ科目です。大学の多くの科目は講義を聴き、教えてもらう科目ですが、ゼミナールは自分で調べ、考え、発表するための科目です。情報社会学部の全教員が開講します。所属するゼミナールは2年次の春学期に決めます。必修科目である4年次の「卒業研究」につながる重要な科目ですからよく考えて選んでください。所属するゼミナールとコースは必ずしも対応している必要はありません。したがって、例えば「情報コミュニケーション」のコースに所属していても、社会学系の教員のゼミナールを選択することもできます。ただし、ゼミナールには定員が決められています。

3年次以降には、より専門的に学びたい人のための「発展科目」が用意されています（一部は2年次開講）。深く学びたい分野が決まった学生にぜひ履修してもらいたい科目です。

科目区分

（1）基幹科目

専門科目を学ぶうえで理解しておく必要のある基礎的科目6科目を配置し、すべてが1年次に開講されます。「基礎社会学」などの「基礎」がついた科目は、大学に入学したばかりの学生に専門分野がどのようなものなのかを学んでもらうための入門科目です。「現代社会とコンピュータ」などの情報系の科目では、コンピュータの意義やパソコンの操作を学び、コンピュータについての最低限の知識を修得します。「基幹科目」の6科目すべてが必修科目なので必ず履修して単位を修得してください。

（2）コース導入科目

「コース導入科目」は3つのコースに対応する形で、①社会学、②経営・経済学、③情報学の3分野について、それぞれ4科目（計12科目）が配置され、専門科目（コース科目）を履修するための基礎科目として開講されます。①社会学の「社会調査論Ⅰ」、②経営経済学の「経営・経済基礎論」、③情報学の「情報ネットワーク論」というように、コース名に関連する科目を開講しているのは、各コースの基礎的科目であり、またコースを選択するための判断材料にしてもらうためです。ほかに、①「メディア・コミュニケーション論」、②「簿記論（初級）Ⅰ」、③「基本情報システム論」など、各コース科目を学ぶための基礎となる科目を配置しています。①、②、③の各分野最低2単位、計10単位が卒業必要単位数ですから、広く学びつつ、集中して履修することもできます。もちろん全科目を学んでもかまいません。

(3)コース科目

各コースに所属する学生により多く履修してもらいたい科目が「コース科目」です。「現代社会」、「経営・経済」、「情報コミュニケーション」の3コースについて、それぞれ約30科目が配置されています。

「コース科目」のほとんどが2年次配当です。3年次配当の科目は、先行履修条件を課しているわけではありませんが、一定以上の知識や関心をもっていないと有効な履修が容易ではない科目です。「コース科目」のすべてが選択科目ですが、各学生が所属するコースの「コース科目」については、学習の指針を与えるために卒業必要単位数20単位が設定されています。しかし、20単位は決して大きな制約にはならないでしょう。したがって、所属コース以外の「コース科目」を多数履修することもできます。もちろん、卒業必要単位数を超えて履修することは自由ですから、自分の関心に沿っておおいに学んでください。

(4)選択科目

「選択科目」のうちの「発展科目」は、専門科目をさらに深く学ぶための科目です。関連するコース科目等を履修したうえでさらに専門的に学習したい学生が履修するように、多くが3年次に開講されます。プログラミング科目や会計科目などについては、集中的な学習を可能にするために2年次に配置しています。

「全学共通科目〔オープン科目〕」は、他学部が開講している科目です。情報社会学部の範囲を超えてさらに広く学習したい学生は、自分の関心に沿って履修することができます。

(5)演習科目

演習科目の意義は少人数のクラスできめ細かい教育を行うことにあります。しかしそれだけではありません。他の科目ではあまり経験することができない議論や発表などを行う重要科目であり、これこそが大学らしい科目だと言えます。ゼミ（ゼミナール）と呼ばれ、情報社会学部に所属するすべての教員が各クラスを担当します。

「情報社会学部基礎演習」は入学してすぐの1年次春学期にすべての学生が履修するもので、本の読み方、発表の仕方、大学での学習の仕方などを学びます。大学での学習についてわからないことがあれば相談しましょう。

専門ゼミである「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」は2年次秋学期から3年次秋学期まで開講され、おもに卒業研究の準備としての学習をします。これらは必修科目であり、各教員が担当するゼミナールのいずれかを履修しなければいけません。

卒業論文を作成するための「卒業研究」は4年次に通年で開講される必修科目です。卒業論文（あるいは卒業制作）を提出して、必ず単位を修得しなければいけません。卒業研究は、知識を覚えてもらうだけでなく、知識を作り出すという大学本来の機能を体験するためのものであり、大学における学びのゴールとなるものです。

社会調査士について

情報社会学部では、あらかじめ定められた認定科目の単位を修得することによって、社会調査士の資格を取得することができます。社会調査士の資格を取得することによって、世論や市場動向、社会事象をとらえることのできる社会調査の能力を有する専門家として認められます。

社会調査士の資格を取得するために、修得しなければならない科目(予定)は、下表の通りです。

詳細は、一般社団法人 社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を確認してください。

授業科目	配当年次	単位	資格取得に関わる科目	備考
社会調査論Ⅰ	1・2・3・4	2	【A科目】社会調査の基本的事項に関する科目	
社会調査論Ⅱ	1・2・3・4	2	【B科目】調査設計と実施方法に関する科目	
社会調査の読み方Ⅰ	1・2・3・4	2	【C科目】基本的な資料とデータの分析に関する科目	
社会調査の読み方Ⅱ	2・3・4	2	【D科目】社会調査に必要な統計学に関する科目	
アンケート分析法	2・3・4	2	【E科目】量的データ解析の方法に関する科目	EかFの どちらか
インタビュー分析法	2・3・4	2	【F科目】質的な分析の方法に関する科目	
社会調査演習(アンケート)Ⅰ	2・3・4	2	【G科目】社会調査の実習を中心とする科目	連続受講が 望ましい
社会調査演習(アンケート)Ⅱ	2・3・4	2		

履修方法について

情報社会学科における学科専攻科目の卒業必要単位は100単位（全学共通科目を含めると124単位）で、その内訳は以下のとおりです。詳細は、巻末の「情報社会学部情報社会学科 授業科目年次配当表」を参照してください。

(A-1)基幹科目(必修)、(A-2)コース導入科目(選択必修)、(B)コース科目、(C-1)発展科目、(C-2)、(D)演習科目(必履修、卒業研究は必修)の区分に分けて履修方法の要点を説明します。

学科専攻科目の卒業必要単位

(A) から (D) の科目区分ごとに定められた卒業必要単位を満たすように授業科目を履修していく必要があります。なお、学科専攻科目の授業科目には半期2単位、半期4単位、通年4単位の科目があります。

半期2単位科目……………1週間に1回授業が行われる半期完結型科目です
 半期4単位科目……………1週間に2回授業が行われる半期完結型科目です
 通年4単位科目……………1週間に1回授業が行われる通年完結型科目です

科 目 区 分	卒業必要単位数		合 計
(A-1) 基 幹 科 目	12単位	すべて必修。	100単位 ※2
(A-2) コー ス 導 入 科 目	10単位	①社会、②経営・経済、③情報の3つの分野から各2単位以上は必修。	
(B) コー ス 科 目	20単位	選択科目	
(C-1) 発 展 科 目	46単位	(A-2)および(B)の余剰単位(所属コース外の単位も可能)を含めることができる。(C-2) 全学共通科目の単位からは最大28単位を含めることができる。	
(C-2)			
(D) 演 習 科 目	12単位	情報社会学部基礎演習、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必履修。 ※1 卒業研究は必修。	

※1 必修科目は、必ず履修しなければならない科目です。ただし、必修科目ではないため、単位修得ができなかった場合は、(B) (C) 区分で代替すること。

※2 卒業必要単位数は、全学共通科目の外国語科目と広域科目、24単位を加えた124単位。

(1) 基幹科目 (A) 区分

1) 基幹科目 (A-1) 区分：6科目12単位（必修）

次の6科目12単位は必修科目であり、必ず修得しなければなりません。配当年次に指定されたクラスで履修します。単位を修得できなかった場合は、卒業要件を満たすために再履修が必要です。

授 業 科 目	配当年次	単 位	開 講 時 期	
基 礎 社 会 学	1	2	春学期	
社 会 調 査 の 読 み 方 Ⅰ	1	2		秋学期
企 業 分 析 の 基 礎	1	2	春学期	
経 営 学 基 礎	1	2		秋学期
現 代 社 会 と コ ン ピ ュ ー タ	1	2	春学期	
情 報 リ テ ラ シ ー	1	2	春学期	

●これらの科目は各配当年次に必ず履修しなければなりません。

●受講クラスが指定されています。「時間割表」で確認のうえ、履修してください。



【再履修について】

必修科目が不合格となった場合、必ず再履修して単位を修得しなければなりません

2) コース導入科目 (A-2) 区分：5科目10単位以上（選択必修）

3つの分野①社会、②経営・経済、③情報から各2単位以上、計10単位以上を修得しなければなりません。

10単位を超えて修得した単位は (C) 区分の単位数に含めることができます。

(2) コース科目 (B) 区分

1) コース科目 (B) 区分：所属コースから20単位以上。

①現代社会コース、②経営・経済コース、③情報コミュニケーションコースの中から所属するコースを選択し、そのコースから20単位以上修得しなければなりません。

20単位を超えて修得した単位および所属するコース外で修得した単位は、(C) 区分の単位数に含めることができます。

(3) 選択科目 (C) 区分

1) 発展科目 (C-1) 区分：(C-2) 区分と合わせて46単位以上

コース科目を発展させた科目群です。(A)区分、(B)区分の余剰単位を含めることができます。

2) (C-2) 区分：(C-1) 区分と合わせて 46 単位以上

全学共通科目 [外国語科目・広域科目] の剰余の単位、および本学科に配当されていない全学共通科目 [オープン科目] の単位を、最大 28 単位まで (C) 区分の単位として含めることができます。

(4) 演習科目 (D) 区分

1) 演習科目 (D) 区分：5 科目 12 単位 (卒業研究のみ 4 単位で他は 2 単位)

演習科目は「基礎演習 (情報社会学部基礎演習)」と「専門演習 (演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)」 「卒業研究」で構成されています。「卒業研究」は必修です。他の演習科目は必ず履修しますが、単位の修得ができなかった場合は、(B)・(C) 区分から演習代替科目としてその分の単位を修得しなければなりません。「卒業研究」を修得できなかった場合は、翌学期以降に再履修もしくは (B)・(C) 区分から演習代替科目として 4 単位 (全学共通科目の単位は除く) の修得が必要となります。

演習は特定の教員の指導のもとに、みなさんが自ら研究し、発表・討論する形式の少人数教育です。「情報社会学部基礎演習」は、大学で学ぶために必要な基礎的な技能と知識を身につけることを目的とし、1 年次春学期に開講します。指導教員はあらかじめ決められています。

「専門演習」は、2 年次秋学期から「演習Ⅰ」が始まり、3 年次春学期の「演習Ⅱ」、秋学期の「演習Ⅲ」、4 年次通年の「卒業研究」で構成されています。2.5 年間の一貫した教育です。「卒業研究」では、研究の成果として卒業論文 (あるいは卒業制作) を提出します。

卒業論文の内容については、就職活動の面接試験の際にも問われることがありますので、大学生活の集大成として取り組んでください。指導教員はみなさんの希望によって決まりますが、定員を超える希望があった場合には、その限りではありません。

●「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「卒業研究」は、原則、同一の教員が担当します。ただし、事情により、各学期終了時に他のゼミナールに異動することができます。(「卒業研究」は通年科目のため途中での変更はできません。) この場合、所属ゼミと異動先ゼミ、双方の担当者の了解のもと、教務部に「転籍届」を提出しなければなりません。



【注意！】

4 年間で卒業するには「演習Ⅲ」の単位修得の有無に係わらず、4 年次に「卒業研究」を履修し単位を修得しなければなりません。

●「卒業研究」を修得できなかった場合は、翌学期以降に学科専攻科目の選択科目(B)(C)の中から 4 単位 (全学共通科目の単位は除く) を修得し、代替することができます。

先修科目について

科目の性質上、当該科目を履修する前に他の科目を修得しておくことが望ましい場合があります。本学部では制度上の制限はありませんが、シラバスを読んで各自で判断してください。シラバスを読まずに履修した場合、単位の修得が非常に困難になることがあります。

- 科目名に「△△△Ⅰ」「△△△Ⅱ」、あるいは「□□□基礎」「□□□応用」とある場合は、基本的に「△△△Ⅰ」あるいは「□□□基礎」を先修し、その後で「△△△Ⅱ」あるいは「□□□応用」を履修することが望ましい。

セメスターごとの履修最高単位数に含まない科目

《全学共通科目》①必修外国語科目の再履修、②インターンシップ、③語学研修

《学科専攻科目》①(A-1) 基幹科目の再履修、②(D) 卒業研究の再履修

《その他の科目》①大学コンソーシアム大阪単位互換科目、②関西外国語大学単位互換科目、
③資格科目



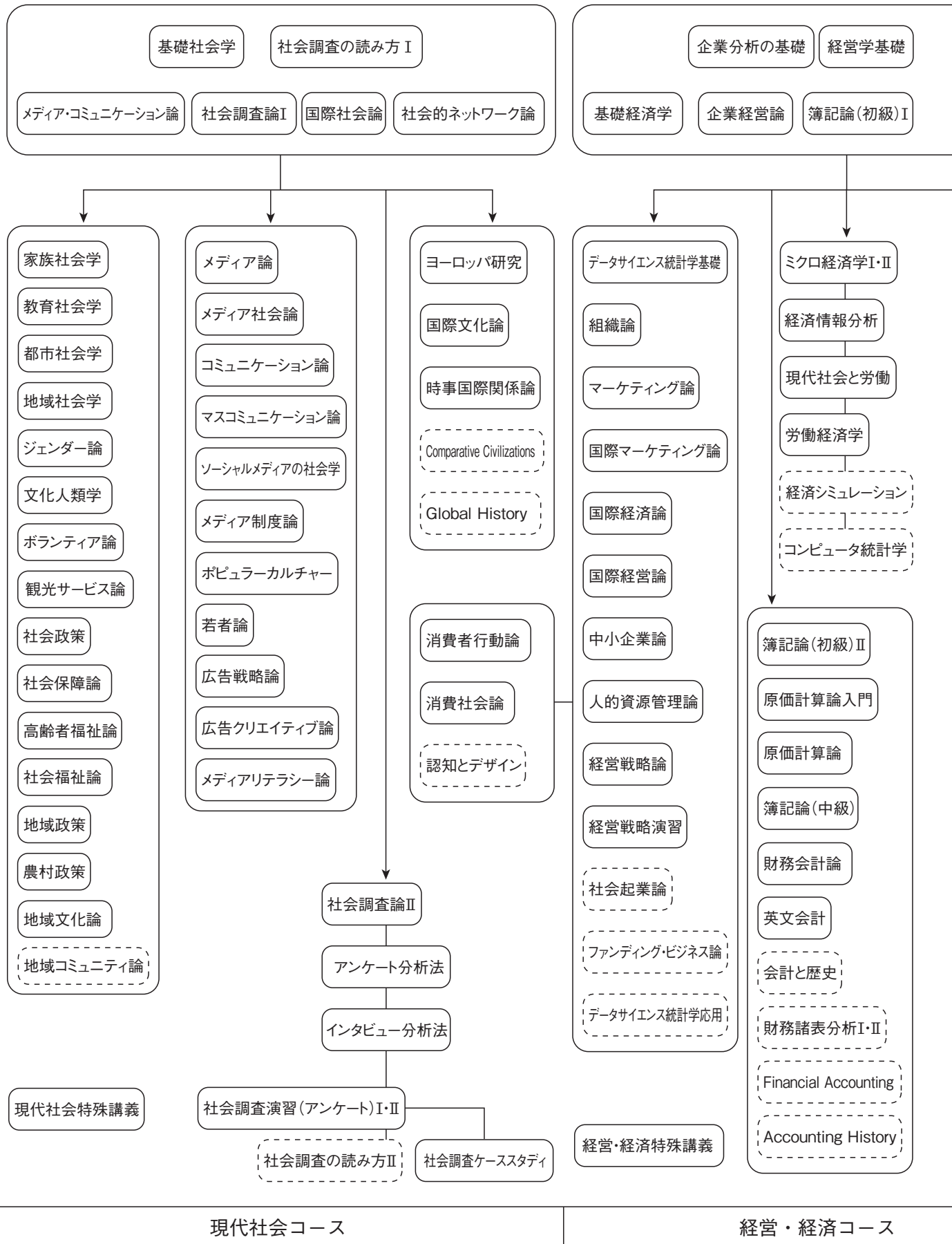
【情報社会学部の資格取得による単位認定について】

「基本情報技術者」、「応用情報技術者」、「2級ファイナンシャル・プランニング技能検定」、「日商簿記検定1級」、「日商簿記検定2級」を在学中に取得した学生は、申請により、それぞれ2単位（ただし、最高で4単位）が認定されます（卒業必要単位数に含まれる）。認定科目は「情報社会特殊講義」で選択することができます。これは履修最高単位数には含まれません。情報社会学部では、これらの特典を利用して、できるだけ資格取得することを勧めています。

情報社会学部 履修系統図

基幹科目

コース科目 () は発展科目



全学共通科目

情報社会学部基礎演習

演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

卒業研究

職業指導

情報社会特殊講義

